

安全データシート (SDS)

作成日 : 2017 年 04 月 17 日

改訂日 : 2025 年 04 月 01 日

1. 製品及び会社情報

製品

製品名 SRKフラット 専用反応開始剤

会社情報

会社名 シンレキ工業株式会社

住所 〒 144 - 0052 東京都大田区蒲田 5 丁目 38 番 1 号

緊急連絡先 中央研究所

電話番号 044 - 366 - 1617

FAX 番号 044 - 366 - 1618

推奨用途及び使用上の制限

- ・ 舗装の薄層段差修正材の反応開始剤。

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

有機過酸化物	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
皮膚感作性	区分1
生殖毒性	区分1B
特定標的臓器・全身毒性－単回暴露	区分3（気道刺激性）
水性環境有害性 短期（急性）	区分1

※ その他記載が無いものは分類対象外又は分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

- ・ 強い眼刺激
- ・ アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- ・ 水生生物に非常に強い毒性

注意書き**〔安全対策〕**

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・保護手袋/保護衣/保護メガネ/保護面を着用すること。
- ・取扱い後はよく手をよく洗うこと。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- ・環境への放出を避けること。

〔応急措置〕

- ・取り扱った後、手を洗うこと。
- ・汚染された衣服を脱ぎ、再利用する場合には洗濯すること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
- ・漏出物を回収すること。

〔保管〕

- ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・施錠して保管すること。

〔廃棄〕

- ・内容物/容器を関係法令に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一化学物質・混合物の区別	・混合物	
化学名または一般名	・ジベンゾイルパーオキシサイド（略称：BPO）	
化学式	・BPO $C_{14}H_{10}O_4$ 、フタル酸ジクロヘキシル $C_{20}H_{26}O_4$	
成分及び含有量	・① BPO	30 %
	・② フタル酸ジクロヘキシル	30 %
	・③ その他	40 %
CAS 番号	・① 94 - 36 - 0 ② 84 - 61 - 7	
官報公示整理番号（化審法）	・① (3) - 1349 ② (3) - 1311	
（安衛法）	・①、② 化審法を準用	

4. 応急措置**吸入した場合**

- ・咳や呼吸困難の症状がある場合は保温して直ちに医師の処置を受ける。
- ・新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

- ・気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

- ・付着した身体部位を水で洗浄する。また、汚染された衣類を直ちに脱ぎ、皮膚を多量の水と石鹼水で洗う。異常があれば、医師の診断／手当てを受ける。

眼に入った場合

- ・コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・直ちに多量の水で 15 分以上洗眼すること。
- ・医師の診断／手当てを受ける。

飲み込んだ場合

- ・意識がある場合は、直ちに口をすすいだ後コップ 1 ～ 2 杯の水もしくは牛乳を飲ませ、早急に医師の診断を受ける。無理に吐き出させない。
- ・意識がない場合は、まず呼吸しているかどうかを調べ、頭を後ろににそらして気道を確保し、体を左側が下になるように、横向きに寝かせ、直ちに医師の治療を受ける。

最も重要な徴候及び症状

- ・現在のところ特に有用な情報なし。

応急措置をする者の保護

- ・有害物質に触れないように保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

- ・現在のところ特に有用な情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤

- ・粉末、二酸化炭素、泡、水噴霧、強化液消化剤、ハロゲン化物が有効である。

使ってはならない消火剤

- ・現在のところ特に有用な情報なし。

特有の危険有害性

- ・燃焼ガスには一酸化炭素や分解生成物を含む有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

特有の消火方法

- ・初期消火の場合：粉末／泡消火器を用いて消火後、放水／冷却する。
- ・本格消火の場合：水噴霧／泡消火器／強化液消火器等で空気を遮断し冷却する。

消火を行う者の保護

- ・消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用する。
- ・消火作業を行う者は、空気呼吸器等の保護具を着用し、酸素欠乏及び有害ガスから身を守ること。
- ・本格消化の場合は、爆発の危険があるので絶対に近寄らず、安全な距離を保つ。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・保護具を着用し風上から作業する。
- ・漏出した場所の周辺に関係者以外立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

- ・河川、下水道等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないように注意する。万一、公共水域へ流出した場合は、必要に応じて所轄の消防署、警察署等の監督官庁へ届け出ること。

回収、中和

- ・強い衝撃／摩擦を与えないように注意しながら回収する。

二次災害の防止策

- ・漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- ・周囲の着火源を取り除き、消火用器材を準備する。
- ・火花を発生しないような安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・帯電する可能性があるのでアースを取る等の静電気対策をする。
- ・取扱い機器は防爆構造のものを使用する。
- ・粉じん爆発の危険性も考えられるので大量の取扱いには注意する。
- ・本品の分解を避けるため、使用する機器、設備の材質はステンレス／グラスライニング／硝子／ポリエチレン等を用い、鉄／銅合金／鉛／ゴム等は避ける。

局所排気・全体換気

- ・室内で取り扱いを行う場合は、十分な換気を行い、火気に注意する。
- ・「8. 暴露防止及び保護措置」を参照。

注意事項

- ・眼／皮膚に触れないよう保護メガネ／保護手袋を着用する。

接触回避

- ・「10. 安定性及び反応性」を参照。

安全取扱い注意事項

- ・強烈な摩擦／衝撃は避ける。
- ・火気及び恒温発生の恐れのある所では取り扱わない。
- ・アミン類／強酸／強アルカリ／遷移金属化合物／その他還元性物質等の異物との接触を避ける。
- ・一般薬品と混合する場合は、予め少量試験を行い安全確認する。

保管

技術的対策

- ・炎及び高温のものから遠ざけること。
- ・容器の開放状態から光や熱により徐々に反応が進行し、表面が固化するおそれがあるため、容器を密閉すること。

混触禁止物質

- ・アミン類／強酸／強アルカリ／遷移金属化合物／その他還元性物質等の異物との接触を避ける。
- ・「7. 取扱い及び保管上の注意」及び「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管条件

- ・室温冷暗所（品質の観点から 30 °C 以下）で保管する。
- ・直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
- ・保管場所では火気を使用しない。
- ・転倒防止、転落防止措置をする。横置き、逆置きを厳禁する。
- ・容器を密閉し、保管場所に施錠すること。
- ・保証期間を過ぎた製品は、「13. 廃棄上の注意」に従い速やかに廃棄する。

容器包装材料

- ・本製品の分解を避けるた為、使用する材質はステンレス/グラスライニング/ガラス/ポリエチレン等を用い、鉄/銅合金/鉛/ゴム等は避ける。

8. 暴露防止及び保護措置**設備対策**

- ・蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は局所排気装置を設ける。
- ・取扱場所の近辺に、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
- ・機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。

管理濃度

- ・製品に対する有用な情報なし。

許容濃度

- ・日本産業衛生学会 未設定
- ・米国産業衛生専門家会議 (ACGIH) ジベンゾイルパーオキシド
TLV – TWA 5 mg/m³

保護具**呼吸器の保護具**

- ・状況に応じて、防塵マスクを着用する。

手の保護具

- ・耐油性／耐薬品性型の保護手袋等を着用する。

眼の保護具

- ・側板付き保護メガネ（必要によりゴーグル型保護メガネ）を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・耐油性型の長袖作業着及び安全靴を着用する。

衛生対策

- ・取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	白色粉体
臭い	特異臭
pH	測定不能
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	測定不能（分解するため）
引火点	>110 °C（セタ密閉式）
発火点	データなし
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重（相対密度）	データなし
溶解度	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	95.4°C（DSC）

1 0. 安定性及び反応性**安定性**

- ・常温で暗所に貯蔵、保管された場合は、安定である。
- ・熱に対して不安定。

危険有害反応可能性

- ・アミン類／強酸／強アルカリ／遷移金属化合物／その他還元性物質等との接触により分解が促進される。

避けるべき条件

- ・直射日光を避ける。
- ・火気及び高熱発生のおそれの有る所では取り扱わない。
- ・強烈な摩擦／衝撃は避ける。

混触危険物質

- ・鉄／鋼合金／鉛／ゴム等との接触は避ける。

危険有害な分解生成物

- ・データなし。

その他

自己反応性 ：	消防式圧力容器試験	破裂率	1 mm = 0/10
熱分解 ：	発熱開始温度 95 °C	発熱量	451 J/g
	消防判定	爆発の危険性なし	

1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）	
製品	分類できない（区分対象外）
ジベンゾイルパーオキサイド	ラットの LD50 > 5,000 mg/kg ¹⁾ に基づき、区分外とした。
	LD50 経口 5000 mg/kg
フタル酸ジシクロヘキシル	ラットを用いた経口投与試験の LD50 値>3,200 mg/kg ^{2),3)} 及び>40,000 mg/kg ⁴⁾ から区分外とした。
	LD50 経口 40000 mg/kg
急性毒性（経皮）	
製品	分類できない（区分対象外）
ジベンゾイルパーオキサイド	データ不足のため分類できない。
フタル酸ジシクロヘキシル	ウサギを用いた経皮投与試験の LD50 値>300 mg/kg が記述されているが、区分の特定ができないので分類できない ^{2),3)} 。
急性毒性（吸入：気体）	
製品	区分に該当しない（区分対象外）
ジベンゾイルパーオキサイド	GHS の定義における固体である。
フタル酸ジシクロヘキシル	GHS 定義上の固体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。
急性毒性（吸入：蒸気）	
製品	区分に該当しない（区分対象外）
ジベンゾイルパーオキサイド	GHS の定義における固体である。

フタル酸ジシクロヘキシル	データがないので分類できない。
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	
製品	分類できない
ジベンゾイルパーオキサイド	ラット LC0 > 24.3 mg/L（換算値: 19.0 mg/L） ¹⁾ に基づき、区分外とした。
	LC50 吸入－ラット（粉じん、ミスト） 19 mg/L/4h
フタル酸ジシクロヘキシル	ラットを用いた1時間吸入暴露試験におけるLC50値は>3.2 mg/L ³⁾ との記述がある。固体なので粉塵基準を適用すると、4時間換算LC50値は>0.8 mg/Lより、区分を特定できないので分類できない
皮膚腐食性/刺激性	
製品	分類できない
ジベンゾイルパーオキサイド	皮膚に対し、「軽度の刺激性」又は「刺激性なし」のデータがあり、結論「極く軽度の皮膚刺激性物質」としている ¹⁾ ため、本物質には軽微ないし軽度の刺激性があると考えられ、JIS 分類基準の区分外（国連分類基準の区分3）とした。分類ガイダンスの改訂に従い、「JIS 分類基準の区分外（国連分類基準の区分3）」を明記した。
フタル酸ジシクロヘキシル	ウサギを用いた皮膚刺激性／腐食性試験 ⁵⁾ で「not irritating」、モルモットを用いた試験で「slightly irritating」 ³⁾ と記述されており、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	
製品	強い眼刺激
ジベンゾイルパーオキサイド	ウサギの眼に適用後、24, 48, 72 時間後に刺激性が認められた ¹⁾ が、試験又は試験方法によって刺激性の程度に差が認められた。さらに、本物質は、EU DSD 分類において「Xi; R36」、EU CLP 分類において「Eye Irrit. 2 H319」に分類されている。以上の情報に基づき区分2とした。なお、細区分の情報（ウサギのドレイズ法またはヒトでの知見が軽微で7日以内に回復することを示す情報）が得られなかったため「区分2」に変更した。
フタル酸ジシクロヘキシル	ウサギを用いた眼刺激性／腐食性試験 ⁶⁾ で「not irritating」と記述されている ³⁾ ので、区分外とした。
呼吸器感作性	
製品	分類できない
ジベンゾイルパーオキサイド	データ不足のため分類できない。
フタル酸ジシクロヘキシル	データ不足のため分類できない。なお、ヒトへの影響に関し、喘息を示唆する報告がみられた ⁹⁾ 。
皮膚感作性	
製品	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

ジベンゾイルパーオキサイド	ヒトのマキシマイゼーション試験の結果、及び職業ばく露による疫学的研究で皮膚感作性が確認されている ¹⁾ 。皮膚感作性第2群物質、皮膚感作性物質として掲載されている ^{7),8)} 。さらに、本物質は、EU DSD 分類において「R43」、EU CLP 分類において「Skin Sens. 1 H317」に分類されている。以上の情報に基づき区分1とした。
フタル酸ジシクロヘキシル	【分類根拠】(1)より、区分1とした。なお、新たな知見に基づき、分類結果を変更した。公表された感作性知見 ¹⁰⁾ より、旧分類から皮膚感作性項目のみ見直した(2021年)。【根拠データ】(1)マウス(n=7)を用いた局所リンパ節試験(LLNA: BrdU-ELISA 法)(OECD TG 442B, GLP)において、1回目の試験の刺激指数(SI値)は1.80(2.5%)、1.91(5%)、1.24(10%)であった。高用量ではSI値が1.6以下を示したため、繰り返し試験が実施された。2回目の試験のSI値は2.22(2.5%)、2.28(5%)、1.94(10%)であったとの報告がある ^{11),12),13)} 。
生殖細胞変異原性	
製品	分類できない
ジベンゾイルパーオキサイド	分類ガイドランスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、In vivo では、マウスを用いる優性致死試験 ^{1),14),15)} 、マウスの赤血球を用いる小核試験 ¹⁾ で陰性である。さらに、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験 ^{1),15),16)} 及び哺乳類培養細胞を用いる染色体異常試験 ^{1),13),14)} で陰性である。
フタル酸ジシクロヘキシル	in vitro 変異原性試験(ネズミチフス菌を用いた Ames 試験)が陰性とのデータがあるが、in vivo 試験のデータはないので、分類できない ¹⁷⁾ 。
発がん性	
製品	分類できない
ジベンゾイルパーオキサイド	13)でグループ3、18)でA4に分類しているため、分類できないとした。分類ガイドランスの改訂による区分の変更と情報の追加をした。
フタル酸ジシクロヘキシル	主要な国際的評価機関による評価がなされておらず、データ不足のため分類できない。
生殖毒性	
製品	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
ジベンゾイルパーオキサイド	ラットの経口投与による生殖発生毒性スクリーニング試験 ¹⁹⁾ において、雄親動物に生殖器官重量の減少及び精巣の軽度変性がみられたが、生殖能(交配、妊娠)に影響はなく、児動物に最小限の発生影響(矮小児の頻度増加、体重増加抑制)が見られた ¹⁾ との記述がある。しかし、スクリーニング試験結果からは区分外に分類できず、データ不足のため分類できないとした。

フタル酸ジシクロヘキシル	雌ラットを妊娠 0 日から哺育 21 日目まで経口投与した試験で「親動物に体重の低値、肝臓及び副腎の重量高値、小葉中心性肝細胞腫大が見られた用量で、妊娠期間延長、産児数減少及び児動物の影響として、雌雄で体重低値、腎臓・尿管欠損、雄で腎臓、精巣、精囊、精巣上体、前立腺、肛門-球海綿体筋重量低値、精のう欠損、精巣上体低形成・無形成、小精巣、精巣内生殖細胞消失、ライディッヒ細胞過形成、精巣上体管腔内精子消失、雌で子宮低形成・無形成、卵巣および卵管の無形成、腎臓皮髄境界部鉍質沈着が見られた」との記述がある ³⁾ 。以上、親動物に軽微な影響が見られる用量で、次世代に影響が見られたことにより区分 1B とした。なお、雌雄ラットを用いた 2 世代繁殖毒性試験で「1,200 ppm 以上投与群の F0 及び F1 雌雄親動物に、体重増加抑制、摂餌量の減少、肝臓のび慢性肝細胞肥大、甲状腺ろ胞上皮細胞の肥大が見られ、児動物の影響として、6,000 ppm 群の F1 児動物の雄及び 1,200 ppm 群以上の F2 児動物の雄で肛門生殖突起間距離 (AGD) の短縮及び乳輪の発現がみられた」、「F1 雄親動物の精子数の減少が認められたが、交尾能及び受胎能に変化はなかった」旨の記述もある ^{3),4)} 。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	
製品	呼吸器への刺激のおそれ
ジベンゾイルパーオキサイド	ヒトの鼻、喉への刺激性ありとの記述 ¹⁸⁾ に基づき、区分 3 (気道刺激性) とした。
フタル酸ジシクロヘキシル	「眼、皮膚、気道を刺激する」との記述があるので、区分 3 (気道刺激性) とした ⁴⁾ 。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	
製品	分類できない
ジベンゾイルパーオキサイド	ラットの強制経口投与試験 ¹⁹⁾ において、区分 2 のガイダンス値範囲を超える用量 (1,000 mg/kg/day) で雌雄の生殖器官に影響がみられたとの記述 ¹⁾ から、経口経路では区分外に相当するが、他の経路ではデータがなく、データ不足のため分類できないとした。
フタル酸ジシクロヘキシル	雌雄ラットを用いた混餌による 2 世代繁殖毒性試験で「雌雄親動物 F0 の肝臓にび慢性肝細胞肥大、甲状腺ろ胞上皮細胞の肥大が見られた」旨の記述 ^{3),4)} があり、一次文献 ²⁰⁾ を確認したところ、「肝臓の変化は薬物代謝酵素の誘導と関連して惹起された際に起こる生体内の適応反応によるものと推察される。また、甲状腺ろ胞上皮細胞の肥大は、肝細胞肥大に付随する変化と考えられる」との記述がある。また、90 日間経口投与試験で、区分 2 のガイダンス値の範囲外であるが「肝臓、腎臓の組織学的変化が見られた」との記述がある ^{3),4)} 。以上、本物質の投与により肝臓に影響が見られているが、生体内の適応反応によるものと推察されるとの考察もあるため、分類できない。
誤えん有害性	

製品	分類できない
ジベンゾイルパーオキサイド	データ不足のため分類できない。
フタル酸ジシクロヘキシル	データがないので分類できない。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）	
製品	水生生物に非常に強い毒性
ジベンゾイルパーオキサイド	甲殻類（オオミジンコ）による 48 時間 EC50=0.07 mg/L であることから ¹⁾ 、区分 1 とした。
フタル酸ジシクロヘキシル	藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）の 72 時間 ErC50、甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 EC50、魚類（メダカ）の 96 時間 LC50 値がいずれも > 2.0 mg/L ²³⁾ であり、水溶解度付近まで急性毒性値が報告されていないことから区分外とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	
製品	分類できない
ジベンゾイルパーオキサイド	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急速分解性があり（28 日での BOD 分解度=84% ²¹⁾ ）、急性毒性は区分 1 であるが、生物濃縮性が低いと推測される（LogPow=3.46 ²²⁾ ）ことから、区分外とした。
	EC50 - 甲殻類 [1] 0.07 mg/L
フタル酸ジシクロヘキシル	難水溶性物質であり（水溶解度：0.2（20℃）、4（24℃）mg/L ²⁴⁾ ）、水溶解度付近までの濃度で急性毒性が報告されていないものであるが、急速分解性がある（良分解性；4 週間標準法で BOD:68.5% ²⁵⁾ ）ことから、区分外とした。
残留性・分解性	
	データなし
生態蓄積性	
	データなし
土壤中の移動性	
	データなし
オゾン層への有害性	
	データなし

1 3. 廃棄上の注意

- ・ 残余廃棄物： 加水処理する。加水分解する場合は、水 80 部／水酸化ナトリウム 20 部／界面活性剤 0.3 部からなる分解液にその 1/10 以下の量の有機過酸化物を攪拌しながら徐々に添加（順序を間違えると急激分解を起こすおそれがあるので注意する）し、添加終了後 12 ～ 24 時間攪拌して完全に分解後、廃水処理する。
- ・ 汚染容器・包装： 空の汚染容器や包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可

を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者に処分を委託する。

- ・その他、関係法令の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

国際規制

	海上輸送 (IMDG)	航空輸送 (IATA)
国連番号	3077	3077
国連正式名称	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.	Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s.
輸送危険物分類	9 その他の危険物、環境汚染物質	9 その他の危険物、環境汚染物質
容器等級	III	III
環境有害性	環境有害性：該当 海洋汚染物質：該当	環境有害性：該当

海洋汚染物質 : 該当

特別な輸送上の注意

- ・漏洩防止のため、転倒や転落防止措置をする。
- ・容器の上部を上にし、横置き、逆置きは絶対にしない。
- ・非危険物に属しても、本品の分解を促進する恐れのある物と混載輸送しない。
- ・積み卸しの際は火気厳禁とする。 日光の直射を受けないようにする。 高温にならないようにする。

国内規制

- ・下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規制に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上 消防法	・非危険物
労働安全衛生法	・通知対象物質 (ジベンゾイルペルオキシド、フタル酸ジシクロヘキシル)
海上 船舶安全法	・該当せず
航空 航空法	・該当せず
緊急時応急措置指針番号	・146

安全対策

- ・該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・容器の破損、漏れのないことを確かめ、衝撃、転落、落下、容器破損のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。
- ・直射日光を受けないようにする。
- ・高温にならないようにする。

15. 適用法令

労働安全衛生法

- ・名称等を通知または表示しなければならない化学物質
ジベンゾイルペルオキシド (第 282 号)
フタル酸ジシクロヘキシル (第 1712 号)

- ・皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質

ジベンゾイルペルオキシド
フタル酸ジシクロヘキシル

消防法	・ 非危険物
船舶安全法	・ 該当せず
航空法	・ 該当せず

16. その他の情報

参考資料

- GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル、作業場内の表示および安全データシート (SDS) JIS Z 7253 : 2019
- 化管法・安衛法におけるラベル表示・SDS 提供制度 (平成 24 年 10 月)
- 製品評価技術基盤機構 (NITE)
- 米国産業衛生専門家会議 (ACGIH) “Threshold limit values and biological exposure indices” (2009)
- 1) SIDS (2004)
 - 2) NICNAS (2008)
 - 3) ERI・NITE有害性評価書 (2008)
 - 4) 環境省リスク評価第3巻 (2004)
 - 5) OECD TG 404
 - 6) OECD TG 405
 - 7) 産衛学会勧告 (2012)
 - 8) 日本職業・環境アレルギー学会特設委員会 (2004) 日本職業・環境アレルギー学会リスト
 - 9) HSDB (2002)
 - 10) ECHA RAC Opinion (2014)
 - 11) (ECHA RAC Opinion (2014)
 - 12) CLH Report (2014)
 - 13) REACH登録情報 (Accessed Nov. 2021)
 - 14) IARC 71 (1999)
 - 15) JECFA (2006)
 - 16) NTP DB (Access on June 2013)
 - 17) NTP DB (Access on October 2008)
 - 18) ACGIH (7th, 2001)
 - 19) OECD TG 422
 - 20) 経済産業省 (2003) : 「二世世代繁殖毒性試験報告書」 フタル酸ジシクロヘキシル
 - 21) 既存点検, 1981
 - 22) HSDB, 2013
 - 23) 環境庁生態影響試験, 1999
 - 24) PHYSPROP Database, 2008; 初期リスク評価書, 2008
 - 25) 既存点検, 1977

記載内容の取扱い

- ・安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。取扱う業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお

願います。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

- すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをおすすめします。なお、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は通常的な取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

記載内容の問い合わせ先

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| ・担当部門 | シンレキ工業株式会社 中央研究所 |
| ・住所 | 〒 210 - 0867 神奈川県川崎市川崎区扇町 6 番 2 号 |
| ・電話番号 | 044 - 366 - 1617 |
| ・FAX 番号 | 044 - 366 - 1618 |
| ・メールアドレス | kenkyu@shinreki.co.jp |
| ・受付日時 | 月曜日 ～ 金曜日（祝日は休業） 8:30 ～ 17:30 |
-